



わたしたちに、今できること (各学校の取り組み事例の紹介)

「もったいない」を合言葉に省エネ活動



下高瀬小学校
山口 快哉さん(5年)
磯崎 実矩さん(〃)

下高瀬小学校では、3年前に制定した「下もったいない憲法」を全校生が意識し環境にやさしい生活を送っています。

その一つが「省エネ委員会」。給食時の放送などで、使用電力量を校内に知らせたり、給食を残さず食べようと呼びかけたりしています。

また「もったいないおぼけパスターズ」を結成して、食・節水・緑・資源・リサイクル・節電の6つのグループに分かれて自分たちができる省エネに取り組んでいます。

割りばし回収にアルミ缶回収、合鴨農法での米作りや太陽光発電学習機の活用なども実践し、着実に省エネ活動の成果が出ています。

これからも、省エネ活動を実践・発信し、家庭や地域にもっと広げて行きたいと考えています。

地域住民と協力して取り組むエコ



詫間中学校
濱上 莉子さん(2年)

私たちは、スローガン「来夢輝ける場所へ全力疾走」を掲げ、さまざまな行事や活動に取り組んでいます。

環境問題に関する取り組みで行っている「アルミ缶・牛乳パック回収」では、生徒会が中心となって、毎週水曜日に牛乳パック、毎週金曜日にアルミ缶回収を行っています。地域の方の協力もいただきながら回収して得た収益から、毎年車いすを購入して、地元の福祉施設に寄付しています。また、「たくま夢街道クリーン作戦」や「町内一斉環境美化活動」にも参加して、大勢の市民と一緒に地元の歩道や交差点などの清掃活動を行っています。

これからも、地域の人と積極的にかわりながら、輝ける場所「花と浦島の里」で全力疾走していきます。

生ごみを資源に野菜作り



笠田高校
小野 琢也さん
(農産科学科3年)

笠田高校では、三豊市と連携して「生ごみリサイクル元気野菜作り」を行っています。

これは毎日家庭から出る生ごみを使っての野菜作りです。地元の給食センターで出る野菜などの切りくずや給食の残飯を使用して土作りをし、ダイコンやハクサイ、キャベツなどの野菜を無農薬で栽培しました。収穫した野菜を試食したところ、通常栽培より甘くておいしく、食感が良いと感じました。

今後は、幼稚園や小学校の子どもたちを招待し、生ごみでの野菜づくりについて教えていけるような取り組みがしたいと思っています。そしてゆくゆくは、三豊全体に生ごみ野菜作りを普及させ、生ごみが地域の宝物となるよう、今後この取り組みを継続していきたいと思っています。

今あるものやエネルギー・自然を大切にします

『第1回みとよ・ヤング・エコ・サミット』が12月27日(月)に高瀬町農村環境改善センターで行われました。サミットでは、各学校で取り組んでいるエコ活動の紹介や意見交換をしたあと、全学校共同で「スマイル アフリカプロジェクト」への参加を約束しました。

このサミットは、高瀬高校生徒会の呼びかけで市内36の全小中学校、高校が集まって初めて開催されました。

高瀬高校は、アルミ缶回収や地域清掃活動など、さまざまなエコ活動を続けています。同じように活動する市内の学校と連携し、この活動を地域に広げていこうと各学校に参加を呼びかけました。

サミットでは、環境問題に関する取り組み事例が紹介されたあと、各学校代表者により意見交換が行われました。意見交換では、各学校でのエコ活動(ペットボトルキャップ・牛乳パック・プラタプの回収や緑化・清掃活動など)や「美しい



最後に全員で、今あるものやエネルギー・自然を大切にすることを宣言し、毎年サミットを開催することを約束しました。

い自然を守るため、自分たちが今できること」などについて、活発な意見が述べられました。

意見交換を受けて、高瀬高校生徒会から、みんなで一丸となって取り組む共通テーマ「スマイルアフリカプロジェクト」への参加について提案がありました。このプロジェクトは、サイズが合わなくなつて履けなくなった靴を、アフリカの子どもたちに届ける取り組みです。参加者全員の同意を得て活動を進めていくことに決定しました。

紙面で紹介した事例はほんの一部です。エコ活動に取り組む各校の取り組みは、市ホームページで紹介しています。

市ホームページトップ 学び・スポーツ 小中学校・幼稚園・保育所 みとよ・ヤング・エコ・サミット

問い合わせ
学校教育課 62・1139

皆さんの“気持ち”を入れてください

市役所1階ロビーにもペットボトルキャップ回収BOXを設置しています。1個からでも皆さんの協力をお願いします。

※ペットボトルのキャップ800個でポリオワクチン1人分になります。

